

山里のパワースポット



旧合川町に属する北秋田市鎌沢かまのさわは、山あいの小さな集落だ。幹線道路が通っているわけでもなく、域外の人を訪れることは少ない。

そんな山里に、開創350年あまりになる曹洞宗の古刹こせつ、白津山正法院しろつさんしょうぼういんがあり、地元の人に「鎌沢の大仏」と呼ばれて親しまれている。丈六延命地藏菩薩像じょうろくえんめいじぞうぼさつぞうが安置されている。

丈六とは一丈六尺のことで、身の丈約4・8メートルの木製の立派な大仏さんだ。1745年の作といわれ、秋田では最も古いとされている。長い年月で虫食いや破損が進んだため、本格的な修復が行われ、昨年美しく化粧直しされて神々しい姿が蘇よみがえった。鎌倉時代の仏師運慶一門の仏師の手によるこの菩薩像は、仏教美術としても一級品だ。修復を担当した専門家も、「東北のこの地に、なぜこれほどの立派な仏像がいるのだろう」と驚いたとか。菩薩像安置のために、260年あまりの昔に京都の高名な仏師がこの地を訪れていたのだ。寺としても、ここに菩薩像が安置された経緯ははっきりしていないと言う。歴史ミステリーだ。

いずれ、「弾丸たまよけ地藏」と呼ばれてお参りした出征兵士が無事に戦地から戻ったとか、「汗かき地藏」と呼ばれて飢饉ききんのときにも大仏が汗を流して（身代わりになって？）誰一人疫病にかかる者がいなかったとか、鎌沢の大仏にまつわる逸話は少なくない。

正法院のホームページには、「山門はいつでも開いております」と書かれている。大仏殿もよほどの悪天候でもない限り扉はいつも開いていて誰でも自由にお参りができる。お参りをした人中には、「ここはパワースポット（生気がみなぎってきたり心が癒やされる感じのする場所）だ」という声もあったとか。

特別信仰心を持っていなくても、生活にちよつと疲れた時、背中を一押ししてもらいたい時、ふらりと鎌沢の大仏さんに、会いに行ってみてはいかがだろう。

広い大仏殿の中でも、大仏さんと「目が合う」ポイントポイントは1カ所しかないという。そこにカメラをすえて写真を撮らせていただいた。まなざしに圧倒される